



—— 創立5周年記念誌 ——

常滑市内児童生徒国際交流推進協議会

## ごあいさつ



TSIE 会長

**福田 泰造**

TSIE（常滑市内児童生徒国際交流推進協議会）創立5周年にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

ご高承いただいているとおり、TSIEの創立は平成7年となっています。ちょうどそのころ中部国際空港の具体化が進み、常滑市にも国際化の叫びが大きく響き始めた時期だったと思います。そんな背景の中でTSIEは創立され、市内の子ども達にとって世界に羽ばたく夢が現実となる可能性が生まれた時期でもありました。当時の先輩有志と共に規約づくりに励み、暗中模索の中、燭火を求めて連日連夜、遅くまで話し合ったのが昨日のように思い出されます。

本年は創立5周年に当たりますので、これを記念して別記のとおり講演会、式典、記念パーティー、記念誌の発行など記念事業を実施することになっています。これらの事業は、TSIE会員のご協力によって成立いたします。この度の記念事業には特に多くの方々のご参加を期待します。

さて、創立以来の5年間の各年度ごとの事業としましては、通常総会において、過年度の事業及び決算のご承認、さらに事業計画、予算案のご審議を得て着実に事業を推進してまいりました。ISSEのプログラムによる児童の受入れ、派遣を行う国際交流事業であります。私たちは、TSIEの事業を通じて21世紀を見据えた人類共通のテーマである平和なコミュニティをめざして国際交流を推進して行きたいと考えます。これは、単に常滑市内の小学校の国際交流事業でなく、21世紀に通用する国際人づくり、強いては地域づくりまで広がり、そして国づくりまで発展することを期待する事業だと考えます。

終わりにあたり今後ともTSIEに変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます、ごあいさつと致します。

## 祝 辞



常滑市長

石橋 誠晃

常滑市内児童生徒国際交流推進協議会創立5周年をお祝い申し上げます。

「常滑市内児童生徒国際交流推進協議会」は、地球的な平和に参加貢献する事をもとに、市内の児童生徒に国際交流事業を推進し、さまざまな体験の機会を与えることにより、国際経験の重要性を理解認識することなどを目的に平成7年5月に国際交流推進協議会が創立されました。そして、この5年間に受入、派遣事業、文化交流の夕べなどを企画開催し各国の文化や生活習慣による交流活動を実践して数々の立派な成果を上げられております。これも歴代会長さん始め役員スタッフの皆さん、各学校実行委員会、先生方の並々ならぬご尽力のたまものと深く感謝申し上げます。

市は、2005年開港に向け準備が進められている中部国際空港をインパクトに将来のまちづくりのチャンスととらえ「世界に開かれた生活文化都市」実現を目指しています。また、小中学校では国際理解教育が進められ今後益々多くの国々との文化交流が必要となります。

明日の常滑を担う児童生徒の健全育成に大いに寄与いただくことを期待いたします。終わりに児童生徒国際交流推進協議会の益々の発展を祈念申し上げ祝辞といたします。

# TSIE 創立5周年を祝して

常滑市教育委員会  
教育長

佐藤 利光

常滑市内児童・生徒国際交流推進協議会創立5周年、おめでとうございます。

平成7年5月に創立総会が挙行されて、既に5年。その間、子どもたちの行った国際交流活動は、オーストラリア・マレーシア・インド・アメリカの4か国となりました。常滑を訪れた外国の子どもたちには、その年々に、それぞれの印象と思い出があります。昨年9月に来たマレーシアの男の子、その「大きくなったら外交官になって、またこの日本に来たい。」の言葉も、忘れられないことの一つです。きっと、この常滑の子どもたちも、訪問したそれぞれの国で、お互いの国の文化や生活習慣の違いを違いとして認め、それを大切にしながら、相互理解とお互いの立場を尊重した、立派な国際交流活動をしてきてくれたことと思います。他の市町村に例のない、市民ボランティアの皆様による、本物の児童・生徒の国際交流活動を素晴らしいと思います。TSIEの歴代の会長様をはじめとするスタッフの皆様、各学校実行委員会、各学校の先生方の大変なご労苦・ご尽力に、心から敬意と感謝を申し上げたいと思います。

この会の益々の発展と国際感覚豊かな子どもたちの成長を、心から祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

常滑ライオンズクラブ  
会長

鈴木 宏

私の小学校の頃は、戦後の進駐軍の兵士からチューインガムやチョコレートをもらったのが最初の外国人との接触の始まりでした。アメリカ人は大きな人ばかりだなあ、気前の良い人たちだなあ、というのが実感でした。また映画「打撃王」で見た、ヤンキースのゲーリックやペーブルースに夢を追いかけたものでした。こうした少ない外国への接触は憧れや夢であって、今となれば懐かしい思い出です。

今、我が国の国際交流の事業は、数知れずあると思いますが小学生の交流はあまり例が無いのではないのでしょうか。未知なるものへの挑戦は勇気無くしては出来ません。関係者の方々は、おそらく試行錯誤の連続で議論に議論を重ねてこられた事と思います。困難を乗り越えて継続して事業をやってこられた皆さんに敬意を表します。

最初は小さな明かりでも、何年か継続する事によって、次第にその炎は地域に根差して着実に大きくなってきているのを実感してみえるのではないのでしょうか。

今の子供たちにとって、最初の小さなきっかけがこれからどんな夢を育てていってくれるのか大いに楽しみであります。

21世紀を担う子供たちのために、これからも皆さんが協力し合って活動される事を願っています。

常滑ロータリークラブ  
会長

## 伊藤 明彦

TSIEの創立5周年、誠におめでとうございます。

5周年の事業報告書を見せていただきました。実に多くの事業を成功させ立派な成果を取められたことに対し、TSIEの役員スタッフの皆様方をはじめ、この活動を支えて下さった市の教育委員会や各小学校PTA、そして受入れのホストをしていただいたファミリーの皆様我心からの敬意を表したいと思います。

又この事業に対し、初めて親元を離れ言語や文化、生活習慣の全く違う遠くの国に、大きな不安を乗り越えて進んで応募し、貴重な体験をした児童達の勇気に心からの拍手を送りたいと思います。

今世界は、大変身近に感ずることが出来るようになりました。毛利護さんを乗せたスペースシャトル・エンデバーは、世界中（陸地の8割）を写しとることに成功しました。近い将来、私達は地球の裏側に住む人々や生活なども即座に知ることが出来るようになると思いますが、宗教や考え方の違い、貧富の差など、まだまだ難しい問題はたくさんあります。しかし、大人達のこうした蟠りの影響をあまり受けていない、心の純粋な子供達が直接会うことによって相手を知り、友情が生まれ、それを深めることが出来るならば、そしてこの活動が多くの国々に広がっていくならば、きっとすばらしい世界になると思います。TSIEが益々活躍されることをご期待申し上げ、祝辞といたします。

TSIEの皆様へ

5年に渡るTSIEの発展にお喜び申し上げます。TSIEは常滑市に於いて、一大事業を展開しています。

思い起こせば1994年に全てが始まり、ロービル小学校が児童6名、リーダー2名の派遣団を初めて常滑東小学校へ送り出しました。翌1995年には常滑東小学校がロービル小学校を訪問してくれました。それは本当に素晴らしい交流でした。

私は1995年に常滑を訪問し、TSIE設立に当たり、皆様のお手伝いをする事が出来ました。大変忙しい一週間でしたが、とても充実したものでした。

その時以来、交流プログラムは後を振り返ることなく、前進しています。現在、15の交流事業が、オーストラリア・ビクトリア州の学校に対し行われています。インドとの交流にも成果を遂げ、マレーシアへも大変素晴らしい交流が行われています。アメリカへの初めての派遣も無事完了された事でしょう。私達は、オーストラリア、アメリカ、インドで開催されたISSE国際会議にも、TSIEの代表をお迎えしました。

そして、1998年のロービル小学校から常滑への初めての教師スタディツアーも、忘れることができません。私達全員、どれ程楽しかった事でしょう！そして去年は、常滑から先生方をお迎えしました。その交流は非常に有意義なものでした。今年私達は、日本の生活やもてなしの精神を体験したく、12人の先生達と再び常滑を訪問します。

この交流事業は、常滑とオーストラリア・ビクトリア州でISSEに加盟している学校間に、素晴らしい友情を繰り広げています。現在、文通やファックス、Eメールの交換をしたり、誕生日やクリスマスには贈物を交換したりしている友達がたくさんいます。たくさんの方が、事業の展開と共に変化してきました。

これらの素晴らしい事業を、成し遂げてこられた常滑TSIEの皆様方のご尽力に、大変感謝しています。

私個人としましても、日本の人々に大変親しみを持ち、多くの素晴らしい友人が出来ました。私は日本、特に常滑を訪れることを楽しみにしています。

日本とオーストラリアの末永い友情を願っています。

2000.2.24

ISSEオーストラリア代表 グレグ・オーチャード

ISSEは学校と文化の交流を通し、世界平和と理解に務め、30年を迎えようとしています。私達は、生活に触れ、世界中の何万もの人々に影響を与えてきました。

ここ5年間に、学校のカリキュラムの中に、ISSEプログラムを取り入れていこうとしたTSIEスタッフの洞察力とそのご尽力に対し、心よりおめでとうの言葉を送りたいと思います。これまでにこのプログラムに参加した人々は、他の国の人々と生涯の友情を築いています。ホストや派遣児童も同様に、日常生活や学校生活を共にしたことによって、お互いが交流以前に抱いていた先入観を改め、よい影響を及ぼしています。

ISSEという家族は、平和と友情であなた達を包み込み、末永い関係を続けたいと願っております。

2000.2.29

ISSEアメリカ リリアンより

## TSIE 創立の思い出

TSIE 初代会長

三浦 隆男

TSIE創立5周年、まことにおめでとうございます。

TSIEが年を追うごとにいよいよその視野を拡げ、それは事業内容の充実であり、スタッフを含め賛同者の拡充、そして何よりも国際交流をナマで体験した児童生徒の増加により、TSIEの理念が深く静かに浸透をしていくという構図に、当初かかわりのあった者としてうれしく思い心強く感じています。

さて、そもそものTSIE設立の端緒というのは、当時の常滑ライオンズクラブの一委員会事業に発し、その任にありました柴山氏、清水氏の働きかけがあり、それは全市を対象とする児童生徒の事業に発展させたい、その為には独立した組織を作りたいということにあり、たまたま常中PTAに在籍していた私に会長職をとということで説得されてしまいました。

こまかいことはさておき、初めての会合がもたれたのは平成6年11月。以後6回の準備会を経て、併行して小委員会も何度も開きつつ設立総会がもたれたのは平成7年の5月でありました。当時の竹内教育長の全面的な協力をいただいたことは力強いものでありました。しかしすべてが順調に進んだわけではなく、いろんな思惑の違い、意見衝突もあり瓦解の危機にさらされたこともありました。そこは委員懸命の努力と熱意のもと、何とかクリアーをし、第1回の事業を行うことができました。感慨深いものがありました。

どんなことでも何かと立ち上げ、形あるものに成していくには膨大な量のエネルギーが要ります。それが何とか完遂できたのは、我が国で例をみないといわれた「小学生による国際交流」をなし遂げようという熱意。そこには個人的利益や名誉といったものはなくみんな純粹でありました。だからこそ行政をはじめ各団体の理解・協力を取りつけることもできるのだと意を強くしたものです。

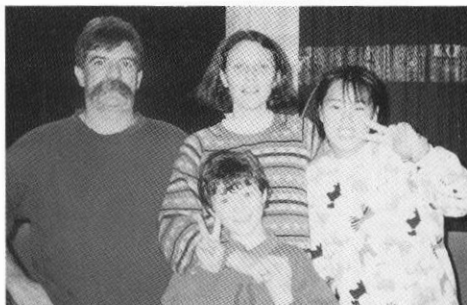
現在は第三代福田会長のもと、ますます熱っぽいTSIEに引きつづきの繁栄あらんことを心よりお祈りいたします。

異文化体験をして

村田扶美佳（常西小・オーストラリア派遣生）

真っ青な空、透き通った海、陽気な笑い声。今でも私の心の中に鮮明に甦ってきます。オーストラリアでの三週間、私は体で異文化というものを感しました。思い出すときりがない程、様々な出来事があり、私の中でその体験は大きな自信と誇りになっています。一番強く感じたのは、言葉も習慣も異なっても人の温かさは同じということです。

将来、私はこの温かさにもっと触れ、異国の風をもっと身近に感じていきたいです。



外山 華子（常東小・インド派遣生）

私は、一年前にインドへ行き、様々な事を学びました。インドへの派遣が常滑市では最初だったため心配しましたが、顔立ちや言葉が違うだけで心や考え方ではそんなに違いはないと思いました。私の家は寺で、もちろん仏教ですがヒンズー教徒のホストとは何の障害もなく互いに尊重しあうことができました。そして最近、ホストの子から手紙が届きました。私も習いたての英語で返事を書いてこれからもずっと友達でいたいです。

竹内 知史（鬼北小・オーストラリア派遣生）

僕は、この交流を通していろいろなことを学びました。まず、言葉の違いです。オーストラリアへ行く前は、言葉に対する多くの不安を持っていたけれど、実際にはみんなとてもやさしく接してくれ、すぐに親しくなることができました。また、それまで消極的だった性格が前に比べて少し積極的になれたと自分でも感じました。

今の自分があるのはこの体験があったからだと思っています。



村川 耕平（三和小・オーストラリア派遣生）

はじめてみるオーストラリアは、想像していたより雄大でした。英語が話せないのが不安でしたが、ホストファミリーは、とても親切でした。アップウェイ小のみんなも日本語で話しかけてくれてうれしかったです。みるものすべてに感動しました。ホームステイはあっという間にすぎ別れるのがつらかったです。Tシャツに書いてもらったみんなのサインは僕の一番大事な宝物です。またオーストラリアについてみんなに話したいです。

伊藤 直（鬼南小・マレーシア派遣実行委員会）

1997年の夏、鬼崎南小学校からマレーシアに児童を派遣しました。マレーシアはそれまで交流を持った事がなかったため、委員会のメンバーおよびTSIEの役員が下見に出かけたり、日本にきている留学生から、様子を勉強したりと、実際に派遣するまでに下準備が大変でした。不安と期待が入り混じるなか、6人の児童と2人の引率の先生が出発しましたが、マレーシア側の受け入れ態勢もしっかりしていたのと、児童たちの順応性もよく、何も問題なく事業を終えることができました。

顔も、言葉も、文化習慣も違うけれどお互いが分かり合おうという気があれば、人間みな同じということをおのとき知る事が出来ました。



## ホストファミリーの喜怒哀楽

**中野 未希** (常東小・マレーシアホスト児童)

私は外国との交流が好きです。国によって宗教や食べ物などの違いを楽しみながら知ることができるからです。

私の家はオーストラリアとマレーシアの子をホストしました。ホストする前は言葉が心配で英語やマレー語も一生けんめい覚えました。でもジェスチャーなどで気持ちを伝えることもでき、心も通じ合えたと思います。国が違うというのは大変だなと思います。でも私はこれからいろいろな国の人たちと交流をしていきたいです。



**岩川 亘** (西南小・オーストラリアホスト児童)

1998年5月、とても元気なデビッドが僕の家に来た。3週間はあるという間に過ぎていった。日本語を話せないデビッドと英語を話せない僕。学校の帰り道、田んぼに落ちて泥んこになったり、ジュースの自動販売機の前で動かなくなったり、家に連れて帰るのが毎日大変だった。TVゲームをしたり映画を見たり、けんかもたくさんした。言葉が違っても、相手の言っていることが何となくわかった。とても不思議な体験だった。

**古川亜梨沙** (西北小・アメリカホスト児童)

「ねえ、お願い。ホストファミリーやろうよ。」

私は何度も何度も家族に頼みやつこのことでみんなの承諾を得た。

私の家族は英語を話すことができなかったけれど、ニコルとは、ジェスチャーと心で会話することができたので、すぐに仲良くなれた。そして、私とニコルとのコメディのような生活は、あっという間に幕を閉じてしまった。

この3週間は私にとってもニコルにとっても有意義なものであったと思う。ニコルは私の最高の友だち。この思い出は私の心から一生消えないと思う。



ふれあい

**門井 良平** (大野小・オーストラリアホスト児童)

一度だけ、彼と大喧嘩した。彼が勝手にゲームのセーブを消したことから始まった。生活の仕方、マナーなども違っていたので、僕の不満はたまっていた。それがこの時、爆発してしまった。口喧嘩をしてもお互い言葉が通じないので取っ組み合いになった。何とか両親が仲裁に入って仲直りをした。その後は、自然なつき合いが出来るようになった。嫌なことは、「いや」と言えるようになったことが二人の関係を良くさせたと思う。

**稲葉 博一** (鬼南小・インドホスト児童)

ぼくの家インドの子供シダールがやって来た。おにいちゃんが一人数増えた様でうきうきした。言葉が通じなくて、英語の辞書で言葉を探したけれどすぐには探せないのが困った。だから今度は、手招きしたり簡単な英語イエス、ノーで何とか通じた。名古屋城、ボーリング、魚釣り、公園、花火、ゲームをしたりして楽しい毎日を過ごした。2週間目にはけんかもした。最後インドに帰る時の荷造りをしているのを見たら、寂しくて涙がこぼれた。空港へ送って行って家に着いたら、ぼくはシダールと一緒に寝たりゲームをしたりした部屋で、涙が止まらないくらい泣いた。又いつか会いたいと思う。



## リーダーから見た児童の異文化体験

平居真由美 (オーストラリア派遣団リーダー)

大野小学校は、8名の子ども達がオーストラリアのロービル小学校に派遣されました。

初めてホストの方々と出会った時、言葉が通じないために戸惑いが見られ、心配しました。しかし、ホストの方々の温かい人柄に触れ、常に我が子と同じように健康面、精神面の細部にわたり、親切に接してくださるので、子ども達の不安も取れ、全員が安心感をえて毎日を過ごすことができたと思います。

交流活動を通して得たものは数多くあります。言葉を十分話すことが出来ない子ども達に、常に簡単な言葉や身振り手振りで一生懸命に話しかけ、「日本語では何と言うの。」と尋ねてくださるホストの方々の姿を見て、笑顔と意思を伝えようとする気持ちを強く持てば、互いの心が通じ合えるということが一番強く感じ取れたのではないかと考えます。

帰国後、「再びオーストラリアに行きたい。」「これからも他の国との交流を続けていきたい。」との声を聞きました。子ども達の心にオーストラリアのみならず、世界へ目を向ける第一歩を踏み出そうとする気持ちを持たせることができたのではないかと思います。

吉川 博俊 (オーストラリア派遣団リーダー)

「ただいま」

子供たちの華やいだ声、そして、誇りに満ちた笑顔。けっして楽な3週間ではなかったが子供たちは、着実に成長したことを物語っていた。

メルボルン空港に降り立つと、ホストファミリーが出迎えに来ていた。純恵先生は、子供たちのケアすべき点について話そうと駆けずりまわっていた。しかし、あつという間に、私達だけになっていた。「もう、ホストファミリーにまかそう」私達の腹はすわった。

第1週目は、さすがに子供たちも緊張していたのであろう。顔色のすぐれない子もでてきた。6人のメンバーの仲で女の子はたった1人である。その女の子はお昼の弁当が食べれなかった。ホストの母親が、気をきかせて日本食を作ってくれたのであるが、口に合わない。しかし、母親の気持ちを考えると「別なものにしてほしい」ということが言えなかった。見かねた私たちは、迎えに来た母親に事情を説明し事なきを得た。

第2週目。慣れてきたせいか、表情も明るくなり、積極的にいろんな事にかかわるようになってきた。しかし、一人の男の子は表情が暗かった。サッカー好きなこの子は、これを通して交流をしようと考えていた。しかし、この地域の子供たちは、サッカーに興味がなかった。さらに、ホストファミリーにも問題があったので、担任の先生から指導をしていただいた。やはり、子供同志が打ち解けなければ、心のやすらぎや真の交流はできないと思った。

第3週目。子供たちは、もう私たちの手を離れ、完全に異文化に慣れ、親しんでいた。

メルボルンを去る朝、空港での別れは涙、涙の大合唱であった。飛行機の中で、女の子に「よく頑張ったね」と声をかけると、女の子の目にきらりと光る涙があった。私は一生忘れないだろう。

## TSIEの 主な活動報告

柴山 裕子

はやいもので、いつのまにか5年の月日が流れていました。

準備期間を入れますと6年ちかくが経過しています。

準備段階では当時の9小学校、4中学校の校長先生方そして教育委員会の方等に何度もお集まり頂き、御意見をお聞きしたり、またTSIEとしてどんな事をしようとしているのかいろんな角度からの会議を進めて参りました。けれど小学生対象の国際交流プログラムは日本には例が無い為理解を求めるのは困難であり不安材料はいっぱいでした。当時小学生を3週間もの間親もとを離れて海外に行かせる、また海外から小学生を迎えて家庭に滞在させ学校に通わせるということは誰も常識では考えられずむしろ非常識な事だったと思います。けれども今ここで常識というものは常に変化していく物だと感じるようになりました。物事初めてという事は非常に不安と心配、時には恐怖心までも伴います。このようなプログラムがこの常滑でスタートできるのか？迷うことばかりでした。そしてこのプログラムを紹介してきたオーストラリアへたびたび電話をしたりFAXで質問したりできる限りの情報を集めました。オーストラリアからグレッグ オーチャード氏を招いてこの小学生プログラムのISSE (International School to School Experience) の説明会を開き、このプログラムのすばらしさや価値を知って頂く機会をつくり理解を求めていきました。その後TSIEの会員を募り発足に至りました。少数ではありましたが準備委員会のスタッフの努力と協力の下に1995年にスタートし、また市からの補助も受け3校が交流をはじめこれまでに8小学校が経験を持つ事が出来ました。



▲常東小・鬼崎小派遣団 出発式



▲文化交流の夕べ



▲市長表敬訪問 マレーシア



▲オーストラリア教師団 ジャパンスタディーツアー

各小学校がこのプログラムの経験をするには学校によっていろいろな考え方の違いもあり、そういった問題点についても真剣に討論し、お互いの理解と協力をもって進めてくる事が出来たと思います。また国際交流のみならずTSIEを通して市内の小学校どうしのつながりも出来、この5年間オーストラリアをはじめインド、アメリカそしてマレーシア等の国々と交流をもつことが出来るようになってきました。ISSEに加盟して以来1995年オーストラリア、1997年アメリカ、1999年インドと3回ISSEの国際会議が開かれTSIEからも参加し、以前より色々な情報や信頼関係を得る事が出来ましたが交流する国を広げていくにはまだ今後も多くの課題は残されています。TSIEでは今後もより多くの国々を子供達に見せていきたいと願っています。

現在このISSEに加盟しているのは日本では常滑だけです。このプログラムを常滑市民全体に理解して頂く為に1996年から『文化交流の夕べ』と題して毎年、文化会館にて海外からの派遣チームと常滑の子供達との歌やダンスを披露してきました。毎年そこには800名から1000名の常滑市民が集まり、子供達が先入観を持たずに自分達と異なった文化を持った子供達と触れ合う、また自分達の文化を見直す良い機会となっています。小学生の子供達は、大人が考えている以上に順応性を持ちうまく適応していきます。また、子供達だけではなく教師、父兄にも子供達を通して異文化に触れ交流する場を与えられます。このプログラムを進める為には教師の方々の協力がとても重要です。そこで1998年にTSIEは教師の方々の理解を得る為スタディツアーとしてオーストラリアから12名の小学校の教師を10日間受け入れして市内の4小学校を訪問して頂き教師の方との交流の機会を持ち又、翌年の夏休みには全9小学校の教師を対象にオーストラリアへのスタディツアーを企画し、オーストラリアでは教師の方の各家庭で一人ずつホームステイを体験して頂き現地の小学校を訪問し教室で教える等の体験もして頂きました。どちらも良い交流の体験ができたとの報告を受けました。今年も海外からの教師の受け入れを企画しています。今後もTSIEでは少しずつではありますが皆さんの御理解と御協力を得ながら数年後の国際空港の開港に備え外国の人々と対等に交わる事が出来るような子供達また市民を目指して今後も努力していくつもりです。



▲常東小派遣団 インド訪問  
シティーモンテソーリ小学校

## 事業報告 (1995~2000)

1995	常東小	派遣	8/4~8/27	オーストラリア・ロービル小	児童 8名	引率 2名
	常西小	派遣	8/4~8/24	オーストラリア・アップウェイ小	児童 6名	引率 2名
		受入	9/10~10/1	オーストラリア・アップウェイ小	児童 6名	引率 1名
	鬼南小	受入	9/11~10/2	オーストラリア・ロービル小	児童 6名	引率 1名
1996	鬼南小	派遣	8/2~8/25	オーストラリア・ロービル小	児童 8名	引率 2名
	常東小	派遣	8/2~8/24	オーストラリア・ベルグレープサウス小	児童10名	引率 2名
		受入	9/16~10/7	インド ・シティモンテソーリ小	児童10名	引率 2名
	鬼北小	受入	9/21~10/12	オーストラリア・ベルグレープサウス小	児童 6名	引率 2名
	西北小	受入	9/21~10/11	オーストラリア・コカトゥ小	児童 6名	引率 3名
		第1回文化交流の夕べ		9/27 常滑文化会館大ホール		
		ISSEコンファレンス		7/7~7/14 オーストラリア	参加者 4名	
1997	鬼北小	派遣	8/2~8/24	オーストラリア・ベルグレープサウス小	児童 6名	引率 2名
	西北小	派遣	8/2~8/24	オーストラリア・コカトゥ小	児童 6名	引率 2名
	鬼南小	派遣	8/6~8/24	マレーシア ・スバンジャヤ小	児童 6名	引率 2名
		受入	9/27~10/18	オーストラリア・ラングウォーリン小	児童 8名	引率 2名
	常東小	受入	9/15~10/4	オーストラリア・ベルグレープサウス小	児童10名	引率 3名
	大野小	受入	9/6~9/29	オーストラリア・ロービル小	児童 6名	引率 1名
		第2回文化交流の夕べ		9/19 常滑文化会館大ホール		
	ISSEコンファレンス		7/18~7/25 アメリカ	参加者 2名		
	マレーシア視察		2/26~3/1 スバンジャヤ小	参加者 5名		
1998	三和小	受入	5/10~5/31	オーストラリア・アップウェイサウス小	児童 7名	引率 2名
		派遣	8/1~8/23	オーストラリア・アップウェイサウス小	児童 7名	引率 2名
	大野小	派遣	7/31~8/23	オーストラリア・ロービル小	児童 8名	引率 2名
	鬼南小	派遣	8/1~8/23	オーストラリア・ラングウォーリン小	児童 8名	引率 2名
	常東小	受入	8/8~8/28	インド ・シティモンテソーリ小	児童 6名	引率 2名
	常西小	受入	9/6~9/21	オーストラリア・ロービル小	児童 6名	引率 2名
	西北小	受入	5/10~5/31	アメリカ ・グラハム小	児童 4名	引率 2名
	西南小	受入	5/10~5/31	オーストラリア・リージェンシーパーク小	児童 6名	引率 2名
		第3回文化交流の夕べ		5/22 常滑文化会館大ホール		
		スタディツアー 受入	6/30~7/7	オーストラリア・ロービル小	教師12名参加	
1999	常西小	派遣	7/31~8/22	オーストラリア・ロービル小	児童 8名	引率 2名
	西南小	派遣	7/31~8/22	オーストラリア・リージェンシーパーク小	児童 8名	引率 2名
	大野小	受入	5/8~5/31	オーストラリア・カウズ小	児童 4名	引率 2名
	鬼南小	受入	5/26~6/14	インド ・シティモンテソーリ小	児童 8名	引率 2名
	常東小	受入	9/22~10/10	マレーシア ・シャーアラムセクション9小	児童 8名	引率 3名
		第4回文化交流の夕べ		9/29 常滑文化会館大ホール		
		スタディツアー 派遣	8/6~8/16	オーストラリア・ロービル小	市内小学校教師9名参加	
	ISSEコンファレンス		6/30~7/4 インド	参加者 2名		
2000	創立5周年記念講演会		3/9 常滑JA会館 「国際交流の楽しみ方」	講師 伊藤達也氏		
	西北小	派遣	3/18~4/2	アメリカ ・グラハム小	児童 5名	引率 2名

## 平成11年度 TSIE役員、顧問及び監査

### 1、平成11年度 役員

会 長／規約第5条第1項の1（1名）

福田 泰造

副 会 長／規約第5条第1項の2（若干名）

西田 久夫（国際化理解教育担当校長）

藤井 啓資（鬼南小事業代表者兼務）

柴山 裕子（ISSE担当）

会 計／規約第5条第1項の3（1名）

皿井 栄一

事 務 局 長／規約第5条第1項の4（1名）

下村 紀江

事業代表者／規約第5条第1項の6（若干名）

岩附 一人（三和小）、齋田 正彦（大野小）、平岡 守（鬼北小）

藤井 啓資（鬼南小）、堀本千容子（常東小）、田中 嗣人（常西小）

柴田 好美（西北小）、岩田 久喜（西南小） 以上13名

### 2、平成11年度 顧問及び監査

顧 問／規約第5条第9項

常滑市長

石橋 誠晃

常滑市議会議員

鯉江 勇

愛知県議会議員

沢田丸四郎

常滑市教育長

佐藤 利光

常滑国際交流協会会長

伊奈 輝三

常滑ライオンズクラブ会長

渡辺 元慈

常滑ロータリークラブ会長

渡辺 安正

TSIE元役員

三浦 隆男

TSIE元役員

柴山東一郎

TSIE元役員

伊藤 文一

以上10名

監 査／規約第5条第8項

大善院住職

外山 泉見

相持院住職

臼井 朗仙

以上 2名

## 常滑市内児童生徒国際交流推進協議会規約

(名 称)

**第1条** 本会の名称を、常滑市内児童生徒国際交流推進協議会 (Tokoname City Students' International Exchange Conference Association)。

(以下「TSIE」という。) とする。

(目 的)

**第2条** TSIEは、地球的な平和に参加、貢献する事をもとに、常滑市内の児童生徒 (小、中学生) に、国際交流事業を推進することにより、さまざまな体験、機会を与え、児童生徒及びその活動関係者が国際経験の重要性を理解、認識するよう努めることを目的とする。

(事業及び運営)

**第3条** TSIEは、前条の目的を達成するために、教育委員会及びPTAとの協力を得つつ、次の事業を行う。

- (1) 常滑市内における、国際交流のための外国からの児童生徒の受け入れ事業。
- (2) 常滑市内における、児童生徒の国際交流のための海外派遣事業。
- (3) その他、前条の目的の達成に必要な事業。
- 2、TSIEは、教育委員会、PTA及び市民ボランティアの活動によって前項各号の事業運営に寄与するものとする。

(会 員)

**第4条** TSIEは、第2条の趣旨に賛同する者及び第2条の趣旨に賛同する市内小中学校により構成する。

- 2、TSIEの入会については、指定書式申し込み書を、役員会に提出し役員の承認をもって登録、入会とする。
- 3、TSIEの会員の退会については、委員長又は事務局を通し、役員会の承認をもって退

会とする。

- 4、会員は各年度総会后、1ヶ月以後をもって会費の納入の無い会員は、会より退会した事として扱う。

(組 織)

**第5条** TSIEに、次の役員を置き、役員会を構成する。

- |           |     |
|-----------|-----|
| (1) 会 長   | 1 名 |
| (2) 副会長   | 若干名 |
| (3) 会 計   | 1 名 |
| (4) 事務局長  | 1 名 |
| (5) 委員長   | 若干名 |
| (6) 事業代表者 | 若干名 |

- 2、役員は、総会において会員の中から選任する。
- 3、役員が欠けた場合の後任者の任期は前任者の残任期間とする。
- 4、役員任期は、一年とし、再任を妨げない。
- 5、役員は、委員会委員を兼ねることができる。
- 6、副会長の内1名は、国際化理解教育担当校長とする。
- 7、事業代表者は、各学校単位において派遣、受け入れ事業等を担当する団体の代表者とする。
- 8、役員会とは別途、役員会の承認をもって会長の任命により監査を2名置く。
- 9、役員会とは別途、役員会の承認をもって会長の任命により顧問を置くことができる。

(役員及び監査、顧問の職務)

**第6条** 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

- 2、副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。
- 3、会計は、経理を担当する。
- 4、事務局は、会務、総務及び庶務を担当し会の円滑な運営と活動を行う。
- 5、委員長は、委員会を掌握し、実務を執行する。
- 6、事業代表者は、各事業実行団体の事業の円

滑な運営を図り団体の総意の意見を述べる。

- 7、監査は、会計を監査する。
- 8、顧問は、各専門事項等にわたり広く意見を述べる。

(役員会の任務等)

- 第7条** 役員会は、総会の可決事項の範囲において、事業実務の事項を付議し、協議、執行する。
- 2、役員会は、会長又は役員申し出により会長が召集し、会長が議長となる。
  - 3、役員会は、役員申し出により、会長の承認によって、役員以外の会員及び有識者等を出席させることができる。
  - 4、役員会は、出席者の過半数で決し、可否同数の時は議長の決するところによる。
  - 5、会長は、随時、会員である市内小中学校に対し、経過を報告し、又は意見を聴取することができる。

(総会及び臨時総会)

- 第8条** 総会は年1回会長が召集し、会長がその議長となる。なお、会長が必要と認めるときは、臨時に総会を召集することができる。
- 2、総会に付議する事項は、次のとおりとする。
    - (1) 予算の議決及び決算の認定
    - (2) 事業計画及び事業報告の承認
    - (3) 役員の変更及び承認
    - (4) 規約の変更及び承認
    - (5) その他、会長が重要と認める事項
  - 3、総会、臨時総会は会員をもって構成する。
  - 4、総会、臨時総会は、出席者の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(事務局)

- 第9条** TSIEの庶務を処理するため、事務局を常滑市内に置く。
- 2、事務局は事業該当校の中から各1名以上及び会員の中から若干名を選任する。

(委員会)

- 第10条** 委員会とは、役員会の議決により、委員会

を置くことができる。

- 2、委員会は、委員長1名、副委員長若干名を置き、委員会委員の中から定める。
- 3、委員会委員は、役員会の承認をもって会員の中から選任する。
- 4、委員会は、委員会委員の申し出により、委員長が召集し、委員長が議長となる。
- 5、委員長は、担当事業に係る意見の聴取、取りまとめをし、委員会運営に関して、役員会において協議を計る。
- 6、委員会委員は役員及び事業実行団体より業務に関する委託、要望をうけ、その業務の円滑なる運営に務める。

(経費)

- 第11条** TSIEの経費は、会費、補助金、寄付金及びその他の収入をもって充てる。
- 2、年会費は300円とする。
  - 3、会員の小中学校からは会費を徴収しない。

(会計年度)

- 第12条** TSIEの会計年度は、毎年4月1日から始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(その他及び緊急の場合の運用事項)

- 第13条** 前条各項の定めのほか、必要な事項は、会長が役員会にはかつて定める。
- 2、緊急の場合には役員会の議決において、総会の決議に変わることができる。

(付則)

- 1、この規約は、1996年5月13日から施行する。

---

## TSIE創立5周年記念事業実行委員会

---

実行委員長	福田 泰造 (TSIE会長)
副委員長	中野 律子 (西北小) 松本 君代 (常東小)
会計	皿井 栄一 (TSIE会計)
記念式典担当	村川 和久 (三和小) 鬼頭 明美 (大野小) 小澤美津子 (鬼北小) 富田美代子 (鬼南小) 藤井 啓資 (TSIE副会長) 竹内みどり (TSIE事務局員) 宇野 千代 (TSIE事務局員) 杉江雄太郎 (TSIE事務局員) 下村 紀江 (TSIE事務局長)
記念誌担当	平澤 春恵 (常東小) 八木 裕子 (西南小) 渡辺ユカリ (西南小) 斎田 正彦 (TSIE事務局員) 都築 明美 (TSIE事務局員)
講演会担当	柴山 裕子 (TSIE副会長)

---